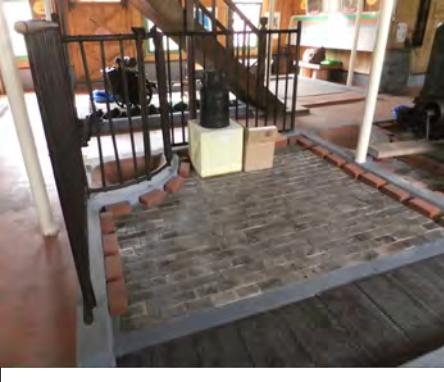


男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 牛舎	現地の通称:	
資料種別: <input type="radio"/> 製品-实物 <input type="radio"/> 製品-レプリカ <input type="radio"/> 製品-模型 <input type="radio"/> 製品図面 <input type="radio"/> 写真等 <input type="radio"/> 図書掲載 <input checked="" type="radio"/> その他		
資料種類: <input type="checkbox"/> 人力用具 <input type="checkbox"/> 手押式 <input type="checkbox"/> 耕耘用 <input type="checkbox"/> 調製用 <input type="checkbox"/> 畜力用具 <input type="checkbox"/> 乗用式 <input type="checkbox"/> 施肥播種 <input type="checkbox"/> 施設類 <input type="checkbox"/> 原動機具 <input type="checkbox"/> 牽引式 <input type="checkbox"/> 管理用 <input type="checkbox"/> 機素 <input type="checkbox"/> トラクタ具 <input type="checkbox"/> 定置式 <input type="checkbox"/> 収穫用 <input checked="" type="checkbox"/> その他	管理プレートNo. <input type="text"/> 統一分類記号 台帳No. D007 <input type="text"/> 相手先番号等 <input type="text"/>	
製作者・会社: 不明	製造市・国名	
製造年_購入年_標本収集年 1930年新築のキング式牛舎		
使用目的・使用方法等	1930年新築牛舎の乳牛を飼育する繫留方式のストールバーンが残されている。どこまで在来の形態が残されたのかはっきりしないものの、一般の酪農家で見る様式と大きな違いがあり、川田男爵が酪農にかけた熱意が感じられる。事務所側にある6床程度の木材ブロックを敷き詰めた広い牛床では、隔柵が一部のみ残されて分からぬが、周囲にあって産室等に使われたと推定し、一隅の角に飼槽があるのが珍しい。また、通路側凹部の糞尿溝は、この中に落された敷藁や糞が展示品のマニュアキャリアで搬出されたとしても、尿の流路は見学者の安全のために埋められたのか、どのようなであったか知りたいと思う。一般展示部のコンクリート牛床は、隔柵と繫留装置がどのようにあったか不明であるが、搾乳牛の飼育場所として興味深い。いずれにしても特色ある牛床である。	
利用経過 収集記録 意義等	一般展示部のコンクリート牛床の各部寸法: 1985年調査時の状況 牛床=幅113 x 長さ153cm、糞尿溝=通路側深さ26cm、牛床側深さ37cm、溝幅=45.5cm、 飼槽=牛床側仕切り高さ16cm、通路側高さ60cm、放物線状飼槽の上面幅80cm	
仕様書 解説等 右に 全体図	全体図 1: 産室らしき牛床、寸法不明 2: 飼槽側からの全景 関連図 1: ウオーターカップ 2: 並置展示の集乳缶 3-4: 搾乳牛用牛床が推定できる部位 飼槽と糞尿溝が想像できる	 
外観特色 関連図等	   	
資料の所在 資料管理経過	公開展示室	資料追記 事項
作業メモ 追記文		